



山口育児院だより

編集・発行 / 社会福祉法人 山口育児院 2016.11.第35号
 〒753-0082 山口市水の上町5-27 Tel 083-922-1027 Fax 083-922-2389
 e-mail y-ikuji@estate.ocn.ne.jp URL http://y-ikuji.sakura.ne.jp/

暑い夏が終わり、これから寒い冬がやってきます。でもその前に短い期間ではありますが、過ごしやすい秋がやってきました。スポーツの秋、芸術の秋、食欲の秋。秋は様々なことにチャレンジできる季節でもあります。山口育児院では10月に球技大会(ミニ運動会)を行い、キックベアやサッカー、バスケットボールさらにはパン食い競争やリレー等、秋晴れの空の下で思いっきり運動をしました。また学校でも、運動会や文化祭、音楽会など、その準備や練習も含めて一生懸命頑張っていました。運動が苦手な子がそれなりにチャレンジしている姿を見てみると、本当に逞しくなったなあと思ひを感じます。そうしていろいろな分野で活躍していると、当然のことながらお腹も空いてきます。食欲の秋です。夏バテから解放され、子ども達の食欲も急上昇。どの子も呆れるほどよく食べます。そういう状況が世間に知れ渡っているのか、今年

もお米の寄贈を頂きました。しかし、その30キロ、60キロのお米が見る見るうちに無くなっていきます。たくさん食べるのは健康な証拠で、嬉しいことなのですが、食事の大切さについて思い出すことがあります。それは私が中学生の時でした。国語の教科書を忘れて先生に怒られた時に、その先生にこう言われました。「武軍！お弁当は持ってきたか！」「はい、持ってきました！」「よし、それなら良い！食は人生の一大事だ！弁当を忘れるような奴は勉強をする資格がない！」今こんなことを言える先生が居るのでしょうか？この先生はとても厳しく怖い先生でした。今は絶対駄目ですが、当時は平気で平手打ちが飛んできました。それでも、生徒は皆この先生が大好きでした。きっと先生の本気の愛情が生徒に伝わっていたのでしょう。今思えば素晴らしい先生だと思います。



スポーツ、芸術、食欲……。元気に過ごしてくれているのは嬉しいのですが、なぜか山口育児院の子ども達は読書の秋や勉強の秋には縁がないようです。表向きには「元気で思いやりを持った子に育ってくればそれでいい」とは思うものの、内心「もう少し勉強してくれないと進路が・・・」とも思っています。時には厳しく、時には煽てながら何とか勉強をさせようとはしますが、これがなかなか一筋縄ではいきません。大人と子どもとのせめぎ合い。さてこの秋はどちらに軍配が上がるのでしょうか。

スポーツと芸術と食欲と・・・の秋

施設長 武重俊之

行楽シーズン！

秋は行楽シーズンです。今年も昨年引き続き徳佐での稲刈りに招待して頂きました。昨年経験した子も初めて経験する子も、慣れない鎌を持って一生懸命稲を刈っていきます。全て昔ながらの手作業で行い、美味しいお米がたくさんできました。子ども達の学習能力は大人よりもはるかに優れており、一度経験したことはすぐに身に付けていきます。



しっかりと働いた後のお昼ご飯はまた格別です。大変な労働も、食事を美味しくする調味料だと言えるでしょう。

また、その後はリンゴ狩りもしました。徳佐の美味しいリンゴをたくさん採って、思う存分食べました。お米作りを経験すると、物を作ることに苦労が分かります。リンゴも食べる分には美味しいのですが、これを作る方の苦労は大抵のことではないだろうかと、きつと子ども達も感じてくれたのではないのでしょうか。食べている姿は何も考えずがついついいるようにしか見えませんが、ちゃんと感じてくれているでしょう。感じているかな？感じているに違いない(笑)

この日の最後には山口線のSLに乗り、秋の爽やかな一日を十二分に堪能できました。



歩々清風

暑い暑いと言っていた夏が終わり、ほんの少しの過ごしやすい季節を経て、今はすっかり寒くなってきました。

夏は冬に憧れて
冬は夏に帰りたい

こんな歌が昔ありましたが、人間は勝手なもので、暑さ寒さを好きになったり嫌いになったりします。しかし、

雪後始知松柏操 事難方見丈夫心

という言葉があるように、人生の艱苦に逢って始めてその人物の真価が解ると言われます。夏の暑さも冬の寒さも、人間の力ではどうしようもないことです。それならば、辛い季節を逆に楽しむようにしてみてもどうでしょうか？辛い日本には四季があります。四季折々の美しさをしっかりと楽しみましょう。(丁)

御案内

育児院では、地域の方々に施設を利用していただく為に、いろいろなサービを実施しています。

トワイライトサービス

仕事の関係で帰宅が夜間になる方、お子さんの下校時より仕事終了時迄お預かり致します。

短期入所サービス

病気、事故、出産等でお子さんの養育が難しくなった時等、短期間お預かり致します。

当院をご利用ご希望の方はお気軽にご連絡下さい。又ボランティアの受け入れもしております。

福祉に関心のある方、是非一度ご来院下さい。



機に臨んで変に必ず

雨漏りに策

山口育児院では、この十月に屋根の修復工事をしました。その工事期間中のことです。工事は屋根全体を三つに分けて進めていくことになっており、最初の三分の一の屋根を剥がした時に、夜中大雨が降り、院舎の中に雨漏りがして大変なことになりました。勿論業者がブルーシートで簡単な雨漏り対策はしていたのですが、一般的な雨漏りではなく屋根を剥がした状態での雨漏りなので、尋常ではない量の雨がダダ漏れとなりまし



た。二階の廊下は川のように水が流れ、一階も大漏れです。当日夜勤の職員と心援の職員で必死になって水をかき出しタオルで吸い取るうとしますが、雨が止む様子はなく、結局一息ついた時には午前二時を過ぎていました。幸い雨漏りは建物の裏側で起こり、子ども達の居室は表側にあるので、一部の子どものみを除いて寝るには支障はありませんでした。そんな状況の中で、子ども達はどうしていたのでしょうか？自分達の荷物も一部濡れてしまったので、当然文句を言ってくるだろうと思っていたのですが、なんと、ほとんどの子ども達が率先して雨漏り対策を手伝ってくれたのです。ある子はクローゼットにある自分の衣装ケースから服を出して、その衣装ケースを雨漏り受けに使ってくれと持ってきてくれました。またある子は大切にしている自分のタオルを提供してくれ、お蔭で水浸しの廊下を拭くことができました。子ども達のその機転の利い

た対応には本当に感心させられます。「衣装ケースは服を入れる物」という固定観念に囚われていたら雨受けに使うという発想は出てこなかったでしょう。また、雨が激しく降り続けている時、全てのバケツや衣装ケースを使っても雨受けが足りなくなるといには洗濯かごも使いましたが、その様子を見た時に関山慧玄禅師の「雨漏りに策」の逸話を思い出しました。

関山慧玄(一二七〇—一三六〇)があるお寺に住していた頃の話です。当時そのお寺は大変な貧乏寺で、雨が降ると所構わず雨漏りがするという有様だったようです。ある雨の日にはやはり雨漏りがし、関山は弟子達に「雨受けになるものを持ってこい」と命じました。しかし雨漏りがする程の貧乏寺ですらバケツのようなものなど有るはずがありません。すると一人の弟子が間髪入れずに「策」を持ってきて関山に差し出しました。その弟子の働きを関山は大いに褒めたということです。

策でいくら受けても雨は溜まり



因みに洗濯かごも、策と同様にそのままでは雨を受けることはできませんので、当然のことながらビニールを被せて漏れないようにして使いました(笑)。



銀メダル獲得!

希望郷岩手大会

山口総合支援学校
中等部3年 H.S(女)

私は10月に行われた国体希望郷岩手大会に出場しました。私の出した種目は、陸上の50m走とソフトボール投げとリレーです。50m走は5位だったけど、自己ベストの記録が出ました。ソフトボール投げは39m投げて2位でした。リレーも2位になりました。ソフトボール投げとリレーで銀メダルを2個もらいました。50m走はメダルを取れなかったけど、いい記録が出たので、すごく嬉しかったです。大会に出ることで育児院の先生達や子ども達に応援してもらったとて嬉しかったです。学校の先生や友達も応援してくれたのでとっても嬉しかったです。みんなが応援してくれたおかげでいい記録が出せました。みんなにしてもらった応援はずっと忘れません。全国大会に行けたのは先生達のおかげです。来年は愛媛で大会があるので、また行けるように必死に部活を頑張ります。



Sちゃん毎日一生懸命部活動を頑張っています。また、山口育児院での生活も、普段からよくお手伝いをしてくれたり、年下の子の面倒を見てくれたりと、本当に優しい子です。今回希望郷岩手大会に出場できたのは本人の努力が一番ですが、周りの人達への感謝の気持ちを忘れていないところが素晴らしいですね。これから部活や学校、毎日の生活に一生懸命頑張りたいと思っています。

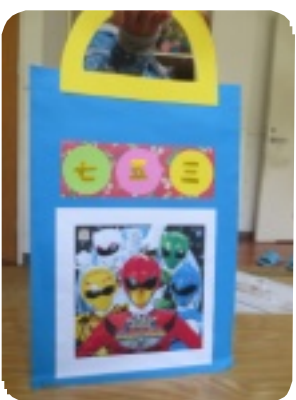


七五三の法要

山口育児院では七五三に当たる児童のお祝いを洞春寺で行っています。今年も5歳の男の子が一人、洞春寺でお祝いをいたしました。

七五三の由来というのは諸説あるようですが、江戸時代に徳川徳松(5代将軍徳川綱吉の長男)の健康を祈って始まったという説が有力だそです。江戸時代に始まったとされる為、本来は旧暦の数え年で行うものですが、現在は満年齢で行うことが増えてきているようです。

山口育児院の男の子も、今回満5歳で七五三のお祝いをしました。職員に着物と袴を着付けてもらい、なれない草履に苦労しながら、それでも精悍な顔で洞春寺に出発します。洞春寺の本堂で読経をしてもらい、男の子の健やかなる成長を御祈禱しましたが、男の子自身も最後に御本尊様に焼香をして神妙に手を合わせていました。その後、本堂前で記念撮影をして職員



5歳のお祝い

手作りのお祝いを貰って終了です。読経の後に御祈禱の回向をしたのですが、その回向は呪文のように、大人が聞いても何を言っているかよく分からないと言われます。しかしその男の子は、回向の途中で、「と名前を読み上げたのをちゃんと聞いていたようで、終わった後、「先生、俺の名前呼んだよね」と嬉しそうに話してくれました。自分がお祝いをしてもらっているという事を理解して、行事の間きちんと集中していた証拠です。

少しぐらいいやんちゃでも構いません。これからも男の子らしく、元気に逞しく成長してくれることを心から願っています。